

1 学校教育目標  
 ～自ら学ぶ意欲と志を持ち、仲間と共に生き合うことのできる  
 心豊かな生徒の育成～

2 今年度の学校重点目標  
 ○全ての教育活動において、愛情を持って生徒に関わる。  
 ○全ての生徒に丁寧に対応し、根気強く学力保証に取り組む。  
 ○生徒の言動の根底にあるものや動かしている要因を理解し、支える。  
 ○たくましく生きる力を鍛えて伸ばす。  
 ○人とともに未来を生き抜くための教育を推進する。

4 総合的な学校関係者評価  
 ○これまで数種類に分かれていた学校評価資料を1枚に集約し、評価項目を明確にされたことで非常にわかりやすい評価となっている。さらに、評価の中に具体的な数値が明記されていると、達成率に説得力が増すと思われる。  
 ○「自問清掃」が定着し、大半の生徒が自発的に一人になって自分と向き合い、心を磨こうとしている。  
 ○今年度、不登校対策に重点的に取り組まれたようであるが、新たな対策が必要である。  
 ○支援や配慮を要する生徒に苦慮されているようであるが、粘り強い支援をお願いしたい。  
 ○これからの学校運営を考えると若手教員、ミドルリーダーの育成が最重要課題ではないでしょうか。

3 学校自己評価結果（A大変良い・B良い・Cあまり良くない・D要改善）

分野	評価項目	達成状況	成果・改善策
特色ある学校運営	①「学び合い」による授業改革  ②掃除の時間を道徳教育として位置づけ、自分と向き合い自らの「心」を磨く。  ③モジュール学習で意欲、集中力、記憶力を高める。	B	新型コロナ感染拡大の影響により、活動を制限せざるを得ない場面が増えたが、適切な対策を講じながら、できる範囲で取り組んだためB評価。  ①4人班での学び合いを基本としているが、限られた期間でしか取り組むことができず、距離をとって活動した。 ②コロナの影響で、膝つきでの雑巾がけが制限されてしまったが、生徒にとって自分と向き合う充実した時間となっている。 ③約9割の生徒が、朝モジュールにより1校時の集中力が増していると回答しているように、大きな効果が出ている。 【課題】 ・モジュールの音読の声が、学年が上がるにつれ小さくなっていることが課題である。 ・教科モジュールにおけるマンネリ化を防ぐために、より効果的な内容を探り続ける必要がある。 ・教師の「自問」に対する共通理解と意識の向上。
確かな学力の育成 （おの検定）	①基礎、基本学習の定着  ②自学自習の週間の定着	C	低学力生徒の底上げが不十分であるためC評価。  ①教科モジュールで、おの検定の練習問題を活用しながら基礎学力の定着を図っているが、漢字64.9%、計算76.1%と目標の80%には及ばなかった。 ②学習部の取り組みである、学習計画を考える時間の設定により、テストに対する意識の向上、計画的な学習の実践につなげることができ、学習時間の増加や課題提出率が向上した。 【課題】 ・特に低学力生徒の勉強に対するモチベーションアップが課題となっている。

<p>小中一貫教育</p>	<p>①自主的な家庭学習、授業での学び合いの推進</p> <p>②生活指導面での綿密な情報共有と同一歩調での取り組み</p> <p>③交流行事の取り組み</p> <p>④各教科での交流</p>	<p>B</p>	<p>新型コロナの影響以外の部分では、一定の成果を得ることができたためB評価。</p> <p>①早期に意識させることで、計画的に学習できるようになってきており、一日の学習時間が習慣化してきている。話し方や司会の進め方等を小中で統一したことでスムーズに話し合いが進められるようになった。</p> <p>②月1回の生活指導(いじめ)対策委員会を合同で実施し、共有した情報を指導に役立てることができた。</p> <p>③新型コロナの影響で中止した行事もあったが、あいさつ交流や合同のアルミ缶収集を行い、社会貢献につながった。</p> <p>④新型コロナの影響で授業交流や出前授業が中止となり、思うような交流ができなかった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人によって、家庭学習の取り組み内容や時間に差があり、支援が必要な生徒には、継続的な個別指導が必要である。</li> <li>SNSの使用状況を集約し、重点4項目については認知度が大幅に上がった。しかし、内容については守られている割合が、学年が上がるにつれて減っており、連携した取り組みの必要性を感じる。</li> </ul>
<p>人権教育・道徳教育</p>	<p>①対話を通して道徳性を高める教育の実践</p> <p>②人権教育の推進</p>	<p>B</p>	<p>授業や行事を通して生徒の人権感覚の高まりを感じることができたためB評価。</p> <p>①道徳の授業では、教材分析シートの作成、ローテーション授業、相互授業参観の取り組みで授業力がアップした。</p> <p>②人権旬間や人権弁論を通して、感謝を伝えたり、人の気持ちを考えたり、人権について考える良い期間となった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業を通して道徳的価値が深まるよう取り組んでいるが、普段の学校生活の中で、反映されていない場面がある。</li> <li>道徳が教科化されたことによる評価の方法について、さらに研鑽を積む必要がある。</li> </ul>
<p>生徒指導</p>	<p>①開発的・予防的生徒指導の実践</p> <p>②不登校生との関係を「切らない、維持する、育む」の実践</p>	<p>C</p>	<p>生徒指導、不登校共に課題が多いためC評価。</p> <p>①子どもたち一人ひとりの個性を理解し、愛情と熱意を持って子どもたちに寄り添い、教員のセルフチェックシートを活用しながら不適切な指導の根絶に取り組んだ。</p> <p>②SCと連携しながら、個に応じた対応(朝の登校、にこにこ教室、放課後登校等)に取り組み、教室復帰できた生徒も見られた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な特性を抱えている生徒が多数在籍しており、個に応じた指導の難しさが浮き彫りになった。</li> <li>不登校になってしまった生徒に対し段階的な対応をしているが、ステップアップに大きな壁がある状況である。</li> </ul>
<p>学習指導</p>	<p>①4人グループでの主体的学び合いの推進</p> <p>②計画的な学習習慣の確立</p>	<p>B</p>	<p>取り組みの成果が形となって表れつつあるためB評価。</p> <p>①授業の中に学び合いの場面を仕組むことで、生徒の中に全員で学びを深めようという姿勢が見え始めた。</p> <p>②学習計画を考える時間を設定することで、テストに対する意識の向上、計画的な学習の実践につなげることができ、学習時間や課題の提出率が向上した。</p>

	③ASK学習の深化		③全校朝会で生徒会学習部が啓発を行ったことにより、「押し出し発言」「接続語発言」「ロング発言」「理由づけ発言」に対する意識が向上し、授業の中で実践する生徒が増えた。 【課題】 ・ コロナ禍の影響で、対面での話し合いが制限されてしまったので、今後加メブツの効果的な活用法について研修を深める。
特別活動	①集い・憩い・潤い・安らぐ時と場が保障される学級づくり  ②生徒会活動や行事を通して、社会性を身につける	B	全体として良好な結果を維持できているためB評価。  ①学級集団形成テストを年2回実施し、多くの項目で100%やそれに近い数値がみられる。行事を通して「仲の良さ」や「いたわり」の数値が向上している。分析結果を基にPDCAサイクルを回し、安らぎのある学級づくりに努めた。 ②特別活動についてのアンケートでは、概ね良好な結果を維持し、多くの項目で100%やそれに近い数値がみられる。特に服装や交通面での数値が高く、マナーを意識できるようになっている。 【課題】 ・ 今後は、善悪の基準を自分たちで作る「駄目なことは駄目といえる」「人から言われたことを素直に聞ける」集団作りに努めたい。 ・ 「厳しさ」や「譲り合い」の項目で数値が低く、集団としての高め合いが少なく感じられた。
特別支援教育	①特別な支援を要する生徒の理解深化と支援の充実  ②小・中・高の連携  ③保護者、関係機関との連携	B	学校改革とも連動した取り組みにより、教師の意識改革が進みつつあるためB評価。  ①支援が必要な生徒との関係づくり、ルールづくりを行い、自尊感情を高めるような支援・声かけ、認める・ほめる声かけに努めた。そして、生徒の定期テストから、つまずき・理解度を分析、次の支援へつなげた。 ②小学校と現7～9年生に関する情報交換を行い、9年生で高校への引き継ぎが必要な生徒のピックアップをし、引き継ぎ資料を作成した。 ③小学校保護者向け特別支援学級・通級懇談会を開催（10月下旬3回向小学校対象に実施）し、好評を得た。さらに、保護者に個別進学相談会への参加を勧め、保護者と発達支援室とつながりを構築した。 【課題】 ・ 教室環境等のユニバーサルデザイン化に対する意思統一。 ・ グレーゾーンの生徒への特性を理解した声かけ・話し方・話すスピード等の適切な支援を全教師が実践する必要がある。 ・ 合理的配慮への理解と実施の推進
安全指導	①安全教育の推進  ②防災教育の充実  ③保健指導の充実	B	日々の地道な取り組みにより、命の大切さが子どもたちの中に浸透しているためB評価。  ①交通安全教室や教職員による毎日の登下校指導を計画的に実施し、生徒の安全意識向上に努め、大きな事故等はなかった。 ②時間予告無し地震訓練と火災を想定した避難訓練を2回実施し、生徒の防災意識向上や災害時の正しい行動について確認することができた。 ③新型コロナウイルス感染予防に全力を注いだ1年であったが、生徒会保健部による「手指消毒、三密回避の徹底」の呼びかけや教員の消毒作業により生徒・学校関係者の感染ゼロを達成できた。 【課題】 ・ 一部の規範意識の低い生徒に対する粘り強い指導が必要。 ・ 震災を風化させない取り組みが必要。

<p>進路指導</p>	<p>①学年に応じた進路指導</p> <p>②キャリア教育の充実</p>	<p>B</p>	<p>おおむね計画通りに充実した活動を行うことができたためB評価。</p> <p>①7年生のキャリア学習で夢を想像し、今の自分を見つめ直し、トライやるや自分の将来について少しずつ考えられるようになっていく。</p> <p>①9年生は進路指導を通して自分の今の状況を理解し、進路実現に向け行動にうつすことができるようになった。</p> <p>②8年生のキャリア講演会では、地域の経営者の生の声を聞かせていただき、自分の将来について考えるきっかけとなった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアノート等を活用し、9年間を見通したキャリア教育、進路指導を充実させる必要がある。</li> </ul>
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>①学校からの積極的な情報発信</p> <p>②学校公開の実施</p> <p>③地域行事への積極的参加</p>	<p>B</p>	<p>コロナ禍の影響部分を除けば、積極的な取り組みが大きな成果を得たためB評価。</p> <p>①ホームページをこまめに更新し、学校行事や学校生活の様子を写真と共に掲載し、少しでも学校の様子がわかるように努めた。さらにメール配信システムを活用し、リアルタイムな情報発信に努めた。</p> <p>②コロナ禍の影響で、予定していた授業参観等は必要最小限にとどめざるを得なかった。</p> <p>③トライやるウィークの代替で、校区内の公園のクリーンキャンペーンを実施した。また、吹奏楽部は積極的に地域行事に参加し、日頃の成果を発表した。さらに、小中が連携してアルミ缶収集を行い、収益を小野市社会福祉協議会に寄付することができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中での学校公開のあり方を創出していく必要がある。</li> <li>保護者だけでなく、地域への積極的な情報発信が課題である。</li> </ul>